

東京交通新聞 2008年3月3日(月)

**< 都内で福祉運営協 >**

**供給不足を懸念 世田谷区**

世田谷区福祉有償運送運営協議会(会長=金澤弘道・世田谷区保健福祉部障害者地域生活課長)が先月25日開かれ、NPO法人S・U総合企画の新規参入、NPO法人国際福祉環境推進機構とハートフルかみんぐの更新に関する協議が整った。世田谷区では昨年11月、社会福祉協議会が有償運送事業から撤退、今回の新規法人の登録が完了すれば世田谷区内の登録団体は12団体となる。新規のS・U総合企画の料金は、乗車から降車の算出で30分800円、30分ごと800円。

団体審議の前に福祉有償運送の必要性を区が改めて説明。「移動困難者が外出する際の福祉移動サービスの供給量は圧倒的に不足している」とした。

**運送対価で見解 杉並区**

杉並区福祉有償運送運営協議会(会長=長谷川万由美・宇都宮大学准教授)が先月28日開催、継続協議となっていた社団法人友愛の灯協会、NPO法人おでかけサービス杉並、更新登録案件の社会福祉法人サンフレンズの協議が整った。NPO法人共に生きる国際交流と福祉の家の更新登録については運送対価の部分を残し継続協議となった。

運送の対価の適用では、友愛の灯協会とおでかけサービス杉並は「出庫から降車」(時間制)を提示したが、杉山錬秀委員(杉並交通社長)は「実車から降車」を主張。小林聡委員(東京運輸支局運輸企画専門官)が「出庫から実車までは迎車したと解釈できる」との見解を示し、「出庫から降車」が了承された。